

参考文献

「人生の原理」

小宮一慶

ちよつとしたことがまたばく違つ

三年生は昨日までに、私立高校の一般入試発表が終わり、いよいよ公立後期入試を残すのみとなりました。

入試の方法には各校様々で、筆記だけでなく面接を行う学校もあります。入社試験でも、面接は必ずあります。

「面接」という短い時間で、その人の「人となり」を見分けられるわけですが、初めて会った人に何故それができるのでしょうか？おそらく、入試や採用試験に限らず、私たちが社会の中で出逢う人も同じだと思います。

「この人は立派だな」「素晴らしいな」…と感じるときがあります。それはなぜか…。立派な人というのは、

「ちよつとしたことがたくさん違つ」ものなのです。

気配り、礼儀、身だしなみ、人との接し方、生活態度、言葉遣い、整理整頓、約束を守る…。それら全てが、

“少しだけ、人よりきちんとしていて深い”。

良い会社というのも、ちよつとしたことがたくさん違うものです。挨拶、接客、サービス、笑顔。それら全てが他社よりすごいものなのです。

これを学校に置き換えても同様です。

挨拶、返事、聞く姿勢、授業中の態度、掃除、部活動…。

それらのすべてが、少しだけ、他の学校よりすごい。

「ちよつとしたことがたくさん違つ」って、しかしながら大変です。当たり前だけど、できそうでできないもの。継続が大変…。だから本物なのです。

ちよつとしたことがまたばく違つ

ポイントは、前号『感じて動く』で触れましたが、“梅の花”のように、「小さな変化に気づけるかどうか」。

大切なことに、大切な人に、目の前のチャンスに、あなたが気づけるかどうか…。

では、大事なことに気づけるようになるために必要なこと、それは、何でも「徹底的にやる続ける」しかありません。徹底してやり続けているから、小さな変化が目にとまる。中途半端にやつても、小さな変化には絶対気づけません。

気づく力(感受性のアンテナ)を磨きたければ、

毎日毎日、繰り返し、「手」を動かそう！

靴を揃える、ロッカーや机の中を整理する、掃除をする…。

無言掃除も同様です。ゆかの半分をくくと、残り半分の

汚れが分かります。毎日続ければ、どこに傷があり、どの

汚れは落ちにくいのか分かります。だから、新しい汚れや

傷にすぐ気づくのです。繰り返し、毎日真面目に手を動か

している人は、すぐ気づくのです。だからこそ、心の訓練として、「一人になって集中」できるように、「無言」なのです。

「研ぎ澄まされた感性は、徹底と継続からしか生まれない」

一度の訓練は、薄皮一枚のようなものですが、その積み

重ねが、人として、ちよつとした時ににじみ出るのです。

今一度、見直してみよう。

徹底できているか、やり続けているか。

「今やう…」ではありません。「今から」です。